

フランス語副詞分類の試み

青 井 明

はじめに

近年、フランス語副詞についての包括的な研究が相次いで公開されている。たとえば、NØJGAARD、GUIMIER、MOLINIER et LEVRIER、GEZUNDHAJT である¹⁾。この中で、NØJGAARD 以外はすべて、-ment で終わる副詞を対象にしている。そこで、本稿では、-ment で終わる副詞も含めた副詞全体を対象にした分類を試みることにしたい。

1. 副詞の機能

副詞と一口に言っても、その機能はいろいろである。以下の例のように、副詞は動詞、形容詞、副詞、文などを修飾する。

Elle chante <i>bien</i> .	(動詞修飾)
C'est un garçon <i>très intelligent</i> .	(形容詞修飾)
Il pleut <i>très fort</i> .	(副詞修飾)
<i>Evidemment</i> , il n'était pas très content.	(文修飾)

2. 副詞の 2 大別

1. で見たように、副詞はさまざまな機能をもっているなので、その機能に着目して、それがなにを修飾するかによって、2 つに分けることが一般に行われる。すなわち、文中のある構成要素を修飾するか (= 文構成要素副詞)、あるいは文中で、副詞がそれ以外の要素全体を修飾するか (= 文修飾) である。

文構成要素副詞と文副詞を区別する分布的基準は、これまでもいろいろなものが提案されてきたが、たとえば GEZUNDHAJT は文副詞を抽出するものとして 12 の基準を挙げている²⁾。しかし、これらの基準を見てみると、すべての文副詞に共通なものではなく、ある文副詞には適用できるが、別の文副詞には適用できないものも含まれている。たとえば、基準 12 は「全体質問に *oui* とともに答えられること」として、つぎの例文が挙げられている。

Marie est-elle partie ? — *Oui, effectivement.*

しかし、文副詞の中でも接続副詞とも呼ばれる副詞はこの基準には合致しない。(*は非文法な文や語句を表わす)

Marie est-elle partie ? — **Oui, pourtant.*

それから、文構成素副詞の中でも数量や程度を表わす副詞はこの基準を満たしてしまうのである。([]は直前の語と交換可能なことを表わす)

Tu aimes Paul ? — Oui, *un peu* [*beaucoup*].

これまでに挙げられた基準をいろいろ検討してみたが、MOLINIER も指摘しているように、つぎの基準がもっとも重要なものと考えられる³⁾。

文構成素副詞を規定する基準は以下の通りである。

1. 否定文の文頭に置くことができない。
2. C'est ... que の間に入れることができる。

否定文の文頭に置けないというのは、その副詞が文全体を修飾していないということの意味する。一方、C'est ... que は強調構文、あるいは分裂文 (phrase clivée) と呼ばれるが、この C'est ... que の間に入るということは、動詞と構文的関係があることを示している。これについて、GROSS はつぎのように述べている。

Etant donnée une phrase, le sujet ou l'un quelconque des compléments du verbe principal peut être déplacé entre C'est et Qu.⁴⁾

つまり、C'est ... que の間に入る要素は、動詞と構文上関係のあるものである。

さて、これら 2 つの基準は論理学でいう「選言命題」(disjonction)で、どちらかの基準を満たせばよいのである。したがって、3 通りのケースが考えられる。

まず、1 と 2 の両方の基準を満たす場合。

**Paisiblement*, Paul n'a pas dormi.

C'est *paisiblement* que Paul a dormi.

つぎに、1 の基準は満たすが、2 は満たさない場合がある。

**Mûrement*, Pierre n'a pas réfléchi à ce problème.

*C'est *mûrement* que Pierre a réfléchi à ce problème.

Mûrement が否定文の文頭に現れることができないのは、意味的に理解できるが、C'est ... que の間に入れることができないのは、動詞 *réfléchir* と副詞 *mûrement* が意味的に密接な結合関係をなして分離開できないからである。

最後に、1 の基準は満たさないが、2 は満たす場合がある。それは時の副詞の一部と領域・観点の副詞である。

Hier, Pierre n'était pas là.

Juridiquement, Pierre n'est pas en tort.

C'est *hier* que Pierre était là.

C'est *juridiquement* que Pierre est en tort.

今度は、文副詞を確定する基準を見てみよう。

1. 否定文の文頭に立つことができる。
2. C'est ... que の間に入れることができない。

これら 2 つの基準は、論理学でいう「連言」(conjonction) であって、文副詞であるためには、これら 2 つの基準を同時に満たさなければならない。言い換えれば、必要十分条件である。

Apparemment, il n'était pas content.

**C'est apparemment qu'il était content.*

3. 文構成素副詞

それでは、文構成素副詞、文副詞の順で、それぞれの下位分類を、検討することにしよう。

3.1. 動作様態の副詞

「副詞」(adverbe) とは元来「動詞を修飾するもの」の意であるが、これは副詞の代表的な用法である。つまり、動作・作用のあり方を表わす副詞である。

応答文では、comment を含んだ疑問文の答えの焦点となる副詞である。

Comment allez-vous ? — Je vais très *bien*, merci.

また、形態的には、-ment で終わる副詞の場合には、「de façon [manière] + 形容詞」に置き換えることができるという特徴をもつ。

例：bien, mal, automatiquement, précieusement, rapidement, vite, etc.

これらの動作様態の副詞は、上記の 2 つのテストによって、否定文の文頭には現れることができず、しかし、C'est ... que の間には入れることができるのがわかる。

Paul a classé *alphabétiquement* ses fiches.

**Alphabétiquement*, Paul n'a pas classé ses fiches

C'est *alphabétiquement* que Paul a classé ses fiches.

そして、-ment で終わる副詞の大部分は「de façon [manière] + 形容詞」で交換可能である。

Paul a classé *de façon alphabétique* ses fiches.

Remarque. ただし、MOLINIER によると、mortellement などは de façon mortelle に置き換えられないという⁵⁾。

Paul a frappé *mortellement* la victime.

**Paul a frappé de façon [manière] mortelle* la victime.

これは、frapper mortellement 「殴り殺す」が動作の様態というより、動作の結果を表わしているので、様態を表わす de façon [manière] mortelle に置き換えることができないと考えられる⁶⁾。

なお、MOLINIER は動作様態を表わす副詞でも、動詞との結合度が強いと、C'est ... que の強調構文にできないとして、つぎの例を挙げている⁷⁾。

Paul conserve *précieusement* la lettre.

**C'est précieusement* que Paul conserve la lettre.

さて、この動作様態の副詞の中には、特に動作主の様態を表わすグループがあり、これを「動作主様態の副詞」と呼ぶことにしよう。これは「主語志向の様態副詞」(adverbes de manière orientés vers le sujet)ともいわれるものである⁸⁾。

この副詞の特徴は、意味的には動作主は人間で、形態的には *-ment* で終わる副詞である。そして、これは「主語 (=人間) + être + 形容詞」に対応する。言い換えれば、この *-ment* で終わる副詞は、その元になっている形容詞が人間に関するものなのである。

例：attentivement, calmement, joyeusement, mélancoliquement, patiemment, etc.

Jean a lu *attentivement* la lettre.

→ Jean a été attentif en lisant la lettre.

→ Jean a été attentif dans sa lecture de la lettre.

これらの副詞は、否定文の文頭には置くことができないが、C'est ... que の間に入れることはできる。

**Attentivement*, Jean n'a pas lu la lettre.

C'est *attentivement* que Jean a lu la lettre.

そして、文頭や主語と動詞の間に現れることも多い。

Attentivement, Jean a lu la lettre.

Jean, *attentivement*, a lu la lettre.

-ment で終わる副詞の場合、元になっている形容詞が人間に関するものでないと、動作主様態の副詞ではなく、単なる動作様態の副詞であるので、「人間に関する」、あるいは「有生」(animé) という要件は重要である。

Jean a lu *fragmentairement* la lettre.

→*Jean a été fragmentaire en lisant la lettre.

3.2. 数量・程度の副詞

数量を表わす副詞というのは、combien (de) を含む疑問文の答えとなりうるものである。

Tu as combien de CD ? — J'en ai *beaucoup*.

程度や強意を表わす副詞はしばしば形容詞や副詞を修飾するのに用いられる。

Très と beaucoup は似たところがある副詞であるが、前者は形容詞と副詞を修飾し、後者は動詞と副詞を修飾するというのが原則的な用法である。

C'est une fille *très* jolie.

Ce tableau me plaît *beaucoup*.

例：beaucoup, trop, très, complètement, énormément, extrêmement, faiblement, modérément, profondément, etc.

Beaucoup, très, assez, trop, peu などの数量の副詞と、*-ment* で終わる数量の副詞 (énormément, modérément, exagérément, immensément, etc.) は——これを MOLINIER は「数

量様態の副詞」(adverbes de manière quantifieurs) と呼ぶが⁹⁾——いくつか相違があるので、その構文的、意味的差異を同書から引用しておこう。Beaucoup、très などの数量副詞は、どんな動詞や形容詞や副詞とも共起するというのが原則であるが、énormément、extrêmement はそうではない。

Paul est *énormément* gros [riche, *petit, *pauvre].

vs. Paul est *très* gros [riche, petit, pauvre].

Paul habite *extrêmement* loin [?*près] de chez nous.

vs. Paul habite *très* loin [près] de chez nous.

この場合には、énormément、extrêmement の語源的意味のせいで語彙の選択制限が生じてしまうと考えられる。

つぎに、構文的にも、両者は異なる分布をするという。数量副詞は補語名詞の右側には現れることができないのに、数量様態の副詞の場合にはそれが可能である。

*Paul a aimé ce film *beaucoup* [peu, assez, trop].

vs. Paul a aimé ce film *énormément* [modérément, exagérément].

先に、程度や強意の副詞は形容詞や副詞を修飾すると述べたが、形容詞が名詞を直接修飾する付加形容詞の場合、-ment で終わる副詞は、一般に、後置された形容詞を修飾することはできても、前置された形容詞を修飾することはできないといわれる¹⁰⁾。

une femme *éternellement* jeune / *une *éternellement* jeune femme

un jardin *immensément* grand / *un *immensément* grand jardin

ただし、ある場合には許容量が高くなるとのこと。

une *vachement* [*extraordinairement*, *drôlement*] jolie fille

しかし、この場合でも、形容詞を後置した方がより自然らしい。

une fille *drôlement* [*vachement*] jolie

数量・程度の副詞の下位区分はいくつか行われていて、たとえば岡田では、程度の副詞を「強意詞 (intensifier)」と呼び、7つに分けているが、ここでは、MOLINIER (1990 : 38) に挙げられている区分を参考までに引いておこう¹¹⁾。同書によれば、数量様態の副詞の中には、「強意・数量 (intensifs-quantitatifs)」を表わすもの (énormément, faiblement, modérément, etc.) と「強意・評価 (intensifs-appréciatifs)」を表わすもの (admirablement, divinement, affreusement, atrocement, etc.) があり、コンテキストによって意味合いが異なるという。動詞を修飾するときには、評価の観念が優勢になる。

Paul a chanté *admirablement* [*divinement*, *affreusement*].

それに対して、形容詞や副詞を修飾するときには、強意の観念が強くなる。

Paul est *admirablement* [*divinement*] beau.

Paul chante *admirablement* [*divinement*] bien.

3.3. 取り立ての副詞

「取り立ての副詞」というのは、NOLKE の “adverbiaux paradigmatisants” (範列的副詞類) や MOLINIER et LEVRIER の “focalisateurs” (焦点化詞) に相当するものである¹²⁾。最近、日本語学では「取り立て」という概念が提案されているので、金水・工藤・沼田からその説明を引いておこう。

(略) とりたてて詞とは、文中の種々な要素を「自者」とし、自者と範列的に対立する他の要素を「他者」としたとき、自者について明示される文である「主張」と、他者について暗示される「含み」を同時に示し、両者の論理的関係を表すものである¹³⁾。

フランス語の取り立ての副詞は、文中のある要素の直前あるいは直後に付けて、そこには直接現れていない同じカテゴリーのものと対比しながら、その要素に焦点を当てる、言い換えれば、取り立てるのである。

例： aussi, même, surtout, particulièrement, essentiellement, ne ... que, etc.

Jean boit *uniquement* de l'eau minérale.

ここでは、副詞 *uniquement* が、ミネラルウォーターに対立して、ワインやビールなどのその他の飲み物を想起させつつ、ミネラルウォーターを強調しているのである。

この副詞は直前あるいは直後の要素を取り立てるという機能をもっているので、否定文の文頭はもちろんのこと、肯定文の文頭にも遊離することはできない。

**Uniquement*, Jean ne boit pas d'eau minérale.

**Uniquement*, Jean boit de l'eau minérale.

それから、単独では *C'est ... que* の間に入れることはできないが、名詞句を伴っていれば可能になる。

**C'est uniquement* que Jean boit de l'eau minérale.

C'est uniquement de l'eau minérale que Jean boit.

3.4. 時の副詞

これらの副詞は *quand* や *combien de fois* などを含む疑問文の答えとなりうるものである。

意味的には、3 つに大別できるであろう。すなわち、時点・時期 (date) の副詞、期間 (durée) の副詞、頻度 (fréquence) の副詞である。

例：

- a. 時点・時期：(発話時と直接に関係するもの) *maintenant, aujourd'hui, hier, demain, actuellement, présentement*, (発話時と間接に関係するもの) *alors, ce jour-là, la veille, le lendemain*¹⁴⁾, *antérieurement (à), postérieurement (à)*, (アスペクト的なもの) *déjà, encore, etc.*
- b. 期間：*longtemps, momentanément, provisoirement, temporairement, etc.*
- c. 頻度：*de temps en temps, souvent, parfois, quelquefois, fréquemment, occasionnellement, quotidiennement, rarement, hebdomadairement, etc.*

時の副詞は、構文的には、文頭、文中、文末と比較的自由な位置に現れることができる。そして、否定文の文頭にも現れることができ、C'est ... que の間にも入る。

Hier, Paul a rencontré Jean rue Saint-Jacques.

Paul a rencontré *hier* Jean rue Saint-Jacques.

Paul a rencontré Jean rue Saint-Jacques, *hier*.

Hier, Paul n'a pas rencontré Jean rue Saint-Jacques.

C'est *hier* que Paul a rencontré Jean rue Saint-Jacques.

頻度の副詞の中で、exceptionnellement、fréquemment、occasionnellement、rarement など、「Que+主語+形容詞」や「Il+être+形容詞+que」のパラフレーズが可能である。

Georges va *rarement* au cinéma.

→Que Georges aille au cinéma est rare.

→Il est rare que Georges aille au cinéma.

3.5. 場所の副詞

場所の副詞は、où を含む疑問文の答えとなりうるものである。

Où est Paul ? — Il est *derrière*.

そして、時の副詞と同様、文頭、文末の比較的自由な位置に現れ、否定文の文頭にも置くことができる。

Ici, il pleut à verse.

Il pleut à verse, *ici*.

Ici, il ne pleut pas.

さらに、C'est ... que の間に入れることも可能である。

C'est *là* que Paul a fait connaissance avec Marie.

-ment で終わる副詞の場合、場所の副詞はあまり数が多くないせいか、MOLINIER、MOLINIER et LEVRIER、GEZUNDHAJT では場所の副詞は取り上げられていない。NØJGAARD では“locatifs”としてまとめられている。

本稿では、場所の副詞を意味的に3つに大別することにする。すなわち、場所、距離、位置である。

例：

- a. 場所：（発話空間と直接に関係するもの）*ici*, *là*, （発話空間と間接に関係するもの）*dedans*, *dessous*, *dessus*, *au-dedans*, *au-dessous*, *au-dessus*, （その他）*ailleurs*, *partout etc.*
- b. 距離：*loin*, *près*, *haut*, *bas*, *etc.*
- c. 位置：*devant*, *derrière*, *extérieurement*, *intérieurement*, *à l'extérieur*, *à l'intérieur*, *etc.*

3.6. 領域・観点の副詞

領域・観点の副詞とは、ある命題内容が、ある特定の領域内や、ある観点から見て、真であると主張するとき、その領域や観点を表わす副詞である。GUIMIER では “adverbes de domaine”、MOLINIER et LEVRIER では “adverbes de point de vue”、NØJGAARD では “adverbes limitatifs” と呼ばれている¹⁵⁾。実際、パラフレーズしてみると、領域でもあり、観点でもあるので、本稿では領域・観点というように併記することにした。

例：économiquement, grammaticalement, logiquement, moralement, politiquement, techniquement, etc.

Légalement, Paul a le droit de parole.

これらの副詞は、「dans le domaine + 形容詞 [de + 名詞]」、あるいは「d'un point de vue + 形容詞」で言い換えることができる。

Dans le domaine légal, Paul a le droit de parole.

D'un point de vue légal, Paul a le droit de parole.

パラフレーズ的一种として、これらの副詞に *parlant* を添えることもできる。

Techniquement parlant, cette opération est réalisable.

この領域・観点の副詞は、時や場所の副詞と同様に、否定文の文頭に置くこともできる。

Techniquement, cette opération n'est pas réalisable.

これらの副詞は、ある命題が、ある領域内で、あるいはある観点から見て、真であると述べるのだが、別の領域や観点には関与しない。したがって、その命題が別の領域や観点では成立しないと述べても、矛盾しない。

Logiquement Jean a raison, mais *moralement* il a tort.

そして、興味深いのは、これらの副詞が *très*, *assez* などで修飾できないということである。これはなぜかというと、それらの副詞の元になっている形容詞が「関連形容詞 (adjectif de relation または adjectif relationnel)」¹⁶⁾ と呼ばれるもので、元々 *très* などで修飾できないからである。

Artistiquement, ce tableau n'a pas de valeur.

**Très artistiquement*, ce tableau n'a pas de valeur.

D'un point de vue artistique, ce tableau n'a pas de valeur.

**D'un point de vue très artistique*, ce tableau n'a pas de valeur.

ちなみに、領域・観点の副詞の元になっている関連形容詞は、付加形容詞 (épithète) としては用いることができるが、属詞 (attribut) の用法は不可である。

ce point de vue *artistique*.

*Ce point de vue est *artistique*.

これらの副詞は C'est ... que の間に入れることができる。

C'est *artistiquement* que ce tableau n'a pas de valeur.

以上の例では、領域・観点の副詞は文頭に現れる例ばかりであったが、名詞句の中に現れることもあるのを付け加えておこう。

Georges a relevé des énoncés *linguistiquement* intéressants.

この場合、いわば基底の構造はつぎのように考えられる。

Georges a relevé des énoncés qui sont *linguistiquement* intéressants.

そして、3.2. 数量・程度の副詞の個所でも指摘したように、名詞句の中では、領域・観点の副詞も、前置された付加形容詞とともに用いることはできない。

Jean est un garçon *moralelement* solide.

Jean est un garçon solide *moralelement*.

*Jean est un *moralelement* solide garçon.

4. 文副詞

文副詞は、文全体を修飾するので、現れる位置も、文頭、文中、文末と比較的自由である。

4.1. 発話行為の副詞

これは、GUIMIER の “adverbes métalinguistiques, adverbes illocutifs”、MOLINIER et LEVRIER の “adverbes de phrase disjonctifs de style” に相当する副詞である¹⁾。話し手がどのように文を述べるかを聞き手に示す機能をもつもので、発話の形式に関する話し手のコメントと考えることができるので、本稿では「発話行為の副詞」と称することにする。

このように、話し手の述べ方を予告するので、多くの場合、文頭に現れる。

例：en gros, entre nous, honnêtement, objectivement, concrètement, officiellement, etc.

Franchement, son attitude m'est insupportable.

これは、つぎのようにパラフレーズすることができる。

Je vous dis *franchement* que son attitude m'est insupportable.

この文で、*franchement* は上位の文の伝達動詞 *dire* の動作様態の副詞として働いている。

発話行為の副詞は、否定文の文頭に立つことはできるが、*C'est ... que* の間に入れることはできない。

Entre nous, Paul n'a pas raison.

**C'est entre nous* que Paul n'a pas raison.

Honnêtement、*confidentiellement* のような副詞は、疑問文とともに用いられると、話し手が *honnête*、*confidentiel* なのか、それとも聞き手が *honnête*、*confidentiel* なのかあいまいである。

Honnêtement, tu as aimé ce film ?

したがって、つぎのように 2 通りにパラフレーズすることができる。初めの文では、話し手が *honnête* であり、つぎの文では、聞き手が *honnête* である。

Je te demande *honnêtement* si tu as aimé ce film.

Dis-moi *honnêtement* si tu as aimé ce film.

4.2. 事態評価の副詞

これは、MOLINIER et LEVRIER の “*évaluatifs*” に相当するものである¹⁸⁾。

話し手が命題内容の真を前提にして、その命題に対して、発話時における評価・判断を下すものである。

例：heureusement, malheureusement, regrettablement, bizarrement, curieusement, etc.

Heureusement, Paul a pris le dernier train.

この文はつぎのようにパラフレーズすることができる。

Il est heureux que Paul ait pris le dernier train.

このことによっても、heureusement という副詞が文全体を修飾していることがわかる。

それから、この事態評価の副詞は断定文としか合致しない。疑問文や命令文とは成立しない。

**Heureusement*, Paul est-il venu ?

**Maleureusement*, ne viens pas cette semaine !

これは、上でも述べたように、命題内容が真だと前提しているので、そうでない命題があると副詞と合致しなくなるのである。

この事態評価の副詞の中には、特に動作主に対する評価を表わすものがある（＝動作主評価）。MOLINIER et LEVRIER では、“*adverbes d’attitude orientés vers le sujet*” と呼ばれている¹⁹⁾。この場合、副詞は -ment で終わる副詞で、文の主語はかならず人間を表わす。

例：bêtement, intelligemment, prudemment, sagement, sottement, etc.

Sottement, Jean a répondu à la question de Marie.

これはつぎのようにパラフレーズできる。

Il a été sot de répondre à la question de Marie.

位置についていうと、文頭だけではなく、主語が名詞であれば、主語と動詞の間にも置かれることがある。

Jean, *sottement*, a répondu à la question de Marie.

この動作主評価と動作主様態 (3.1.) との相違は、前者が否定文の文頭に立てるのに対して、後者はそれができない点にある。

Sottement, Jean n’a pas répondu à la question de Marie.

**Attentivement*, Jean n’a pas lu la lettre.

なお、事態評価の副詞は C’est ... que の間に入れることができないが、つぎのような文は可能である。

C’est *sottement* que Jean a répondu à la question de Marie.

なぜなら、この場合には、*sottement* は動作様態の副詞と見なされるからである。したがって、元の文はつぎの文である。

Jean a répondu *sottement* à la question de Marie.

4.3. 真偽判断の副詞

この真偽判断の副詞というのは、GUIMIER の “adverbes assertifs”、MOLINIER et LEVRIER の “modaux”、GEZUNDHAJT の “adverbes de modalité” に相当するものである²⁰⁾。

これは、命題内容の真偽と確実性について、話し手が、発話時において下す判断である。モダリティとも呼ばれる。

例：certainement, effectivement, probablement, bien entendu, bien sûr, certes, etc.

Vraisemblablement, Jean sera en retard.

この文はつぎのようにパラフレーズすることができる。

Que Jean soit en retard est vraisemblable.

Il est vraisemblable que Jean sera en retard.

Évidemment, fatalement, forcément, incontestablement などこのパラフレーズが可能である。

つぎに、この真偽判断の副詞は、全体質問に対する返事としても使われる。

Est-ce que Paul est intéressé par ce film ?

— *Apparemment* [*Assurément, Certainement*].

いくつかの副詞 (certainement, probablement, sûrement, sans doute, etc.) は、文を率いた que に先行することができる。

Certainement [*Probablement*] que Georges sera là.

しかし、この表現は副詞の確実度が高まれば高まるほど、不自然になるようである。

**Bien sûr* [*Sans aucun doute, Indiscutablement*] que...

この点について、BORILLO はつぎのように述べている。

La construction “Adv que P” serait d’autant moins naturelle que l’adverbe exprimerait une certitude plus forte.²¹⁾

4.4. 総括の副詞

総括の副詞とは、MOLINIER と MOLINIER et LEVRIER の “adverbes d’habitude”、NØJGAARD の “itératifs normatifs” に相当する副詞である²²⁾。

このタイプの副詞を初めて指摘したのは、MOLINIER であるが、そこでは “habitude” (習慣) と命名されている²³⁾。しかし、「習慣の副詞」とすると頻度の副詞と区別がつけにくい。この副詞は、通常起こる出来事・動作を示すという働きがあるので、本稿では、総括の副詞と名づけることにする²⁴⁾。

以下、特に頻度の副詞 (*souvent, de temps en temps, parfois, fréquemment, etc.*) と比較しながら、その特徴を見ることにしよう。

まず、総括の副詞は、繰り返しを表わす現在や半過去としか共起しない。

Habituellement, Jean déjeune à la cantine.

Habituellement, Jean déjeunait à la cantine.

**Habituellement*, Jean a déjeuné à la cantine.

**Habituellement*, Jean déjeuna à la cantine.

それに対して、頻度の副詞は過去とも共起する。

Souvent, Jean a déjeuné à la cantine.

Souvent, Jean déjeuna à la cantine.

つぎに、総括の副詞は疑問文とともに用いることができるが、頻度の副詞はそうではない。

Généralement, est-ce que Paul se déplace en voiture ?

**Parfois*, est-ce que Paul se déplace en voiture ?

最後に、総括の副詞は、*C'est ... que* の間に入れることができないが、頻度の副詞はそれが可能である。

**C'est d'habitude* que Georges sort le soir.

C'est souvent que Georges sort le soir.

しかし、総括の副詞も文構成素と一緒にならば可能になる。

C'est d'habitude le soir que Georges sort.

4.5. 接続副詞

接続副詞は、GUIMIER の “conjonctifs”、MOLINIER et LEVRIER の “adverbes de phrase conjonctifs”、GEZUNDHAJT の “adverbes de connexion” に対応する²⁵⁾。

接続副詞は、前に述べられたこととのつながりを示す機能があり、動作・出来事の展開や、論理的関係を示したりする。したがって、唐突に、文頭に現れることはない。かならず、先行する文脈があり、後続の文につなげる働きをする。

この副詞も文副詞の 1 種なので、否定文の文頭に現れることができ、*C'est ... que* の間には入らない。

Inversement, Paul ne refusera pas de donner la réponse.

**C'est inversement* que Paul refusera de donner la réponse.

以下、意味的下位区分にしたがって、例をあげることにする。

- a. 順序 : *d'abord, ensuite, finalement, etc.*
- b. 逆説 : *au contraire, en revanche, inversement, contrairement, etc.*
- c. 譲歩 : *cependant, pourtant, néanmoins, etc.*
- d. 結論 : *aussi, donc, en conséquence, etc.*

e. 要約：en somme, somme toute, en définitive, etc.

f. 話題転換：à propos, à ce propos, à ce sujet, etc.

g. 追加：de plus, en plus, en outre, etc.

D'abord je vais à la boucherie ; *ensuite*, je passe à la pâtisserie.

Jean a beaucoup travaillé, *en conséquence* il a réussi aux examens.

5. まとめ

さまざまな副詞を、2. でも述べたように、2つのテスト、すなわち、否定文の文頭に置けるかどうか、そして、C'est ... que の間に入れられるかどうかによって分類してきたが、それを表の形でまとめるとつぎのようになる。

		～+否定文	C'est～que
文構成素副詞	動作（主）様態	×	○
	数量・程度；取り立て	×	×
	時；場所；領域・観点	○	○
文副詞	発話行為	○	×
	事態評価、動作主評価		
	真偽判断		
	総括		
	接続		

最後に、副詞の中に、同形のものが複数の分類にまたがることがあることに注意しなければならぬ。たとえば、franchement は本文では、発話行為の副詞として分類されたが、実際にはそれ以外の用法もある。

Franchement, je trouve que tu as tort. （発話行為）

Répondez-moi *franchement*. （動作様態）

Cette robe est *franchement* laide. （程度）

注

- 1) Morten Nøjgaard, *Les adverbess français : essai de description fonctionnelle*, Munksgaard, 1992, 1993, 1995 ; Claude Guimier, *Les adverbess du français : le cas des adverbess en -ment*, Ophrys, 1996 ; Christian Molinier et Françoise Levrier, *Grammaire des adverbess : description des formes en -ment*, Droz, 2000 ; Henriette Gezundhajt, *Adverbess en -ment et opérations énonciatives*, Peter Lang, 2000.
- 2) GEZUNDHAJT, *Adverbess en -ment et opérations énonciatives*, 94-95.
- 3) Christian Molinier, “ Une classification des adverbess en -ment ”, *Langue française* 88, 1990, 28-29.
- 4) Maurice Gross, *Méthodes en syntaxe*, Herman, 1975, 34.
- 5) MOLINIER, “ Une classification des adverbess en -ment ”, 37.

- 6) 結果を表わす副詞については、次の論文参照。青井明「結果を表す副詞について：J'ai essayé inutilement de lui téléphoner」『アジア文化研究』別冊 7、1997 年、83-93 頁。
- 7) MOLINIER, “ Une classification des adverbes en *-ment* ”, 37.
- 8) MOLINIER et LEVRIER *Grammaire des adverbes*, 117-145.
- 9) MOLINIER, “ Une classification des adverbes en *-ment* ”, 37.
- 10) GUIMIER, *Les adverbes du français*, 15.
- 11) 岡田仲夫『副詞と挿入文』（新英文法選書第 9 巻）、大修館、1985 年、32 頁。MOLINIER, “ Une classification des adverbes en *-ment* ”, 38.
- 12) Henning Nölke, “ Analyse sémantique des compléments adverbiaux contextuels ”, *Le regard du locuteur*, Kimé, 1993, 25-36 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 272-294.
- 13) 金水敏、工藤真由美、沼田善子『時・否定と取りたて』岩波書店、2000年、xiv 頁。
- 14) *ce jour-là, la veille, le lendemain* は辞書の品詞分類では名詞になっているが、本稿では *adverbial* (副詞類) と見なし、ここに入れてある。実際、*demain* が副詞で、*le lendemain* が名詞というのは、辞書の分類であって、機能に即した分類ではない。副詞類には、その他、形容詞、副詞句、前置詞句、名詞句などが含まれる。
- 15) GUIMIER, *Les adverbes du français*, 141-148 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 219-237 ; NØJGAARD, *Les adverbes français*, 273-284.
- 16) 関連形容詞については、『白水社ラルース仏和辞典』白水社、2001 年、1234 頁参照。
- 17) GUIMIER, *Les adverbes du français*, 133-135, 154-159 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 65-78.
- 18) MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 87-91.
- 19) *Ibid*, 106-116.
- 20) GUIMIER, *Les adverbes du français*, 112-124 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 91-106, GEZUNDHAJT, *Adverbes en -ment et opérations énonciatives*, 219-261.
- 21) Andrée Borillo, “ Les adverbes et la modalisation de l’assertion ”, *Langue française* 30, 1976, 86.
- 22) MOLINIER, “ Une classification des adverbes en *-ment* ”, 32 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 79-87 ; NØJGAARD, *Les adverbes français*, 415-424.
- 23) MOLINIER, “ Une classification des adverbes en *-ment* ”, 32.
- 24) GUIMIER も総括の副詞が頻度の副詞とは異なったふるまいをすることを、つぎのように述べている：En d’autres termes, ces adverbes (= adverbes d’habitude) se comportent sur ce point comme les adverbes de domaine et les adverbes de datation. GUIMIER, *Les adverbes du français*, 153.
- 25) *Ibid*, 125-133 ; MOLINIER et LEVRIER, *Grammaire des adverbes*, 55-64 ; GEZUNDHAJT, *Adverbes en -ment et opérations énonciatives*, 202-217.